

平成21年度 第1四半期報告の概要

<主要指標>

・保険料等収入	・・・	7,696億円	(前年同期比 22.7%増)
・新契約年換算保険料	・・・	414億円	(前年同期比 79.7%増)
・保有契約年換算保険料	・・・	1兆7,004億円	(前年度末比 0.3%増)
・基礎利益	・・・	568億円	(前年同期差 △197億円)
・ソルベンシー・マージン比率	・・・	1,204.0%	(前年度末差 105.3ポイント増)
・実質純資産額	・・・	3兆3,899億円	(前年度末差 4,863億円増)
・一般勘定資産全体の含み損益	・・・	1兆5,342億円	(前年度末差 5,530億円増)
・時価のある有価証券の含み損益	・・・	1兆 959億円	(前年度末差 5,558億円増)
うち国内株式の含み損益	・・・	8,577億円	(前年度末差 5,127億円増)

1. 契約業績のポイント

- ◇ 保険料等収入は7,696億円と、前年同期比22.7%の大幅増加
 - 個人保険・個人年金保険は、個人営業改革のさらなる推進によるクオリティの改善や、定額一時払商品を中心とした銀行窓販における好調な販売実績（1,531億円、前年同期比482.1%増）等により、5,018億円と、前年同期比31.3%の大幅増加
- ◇ 新契約年換算保険料は414億円と、対前年同期比79.7%の大幅増加
- ◇ 保有契約年換算保険料は1兆7,004億円（前年度末比0.3%増）と、合併以降初めて増加に反転

○保険料等収入の状況

（単位：億円）

	平成21年度 第1四半期累計期間		前年同期比	平成20年度 第1四半期累計期間	
保険料等収入	7,696	22.7%		6,272	
うち個人保険・個人年金保険	5,018	31.3%		3,823	
うち団体保険・団体年金保険	2,552	10.1%		2,318	

《ご参考》

・銀行窓販の状況

（単位：億円）

	平成21年度 第1四半期累計期間		前年同期比	平成20年度 第1四半期累計期間	
保険料等収入	1,531	482.1%		263	

○新契約の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	平成21年度 第1四半期累計期間		前年同期比	平成20年度 第1四半期累計期間	
新契約年換算保険料	414	79.7%		230	
うち第三分野	63	△6.1%		68	

○保有契約の状況

（単位：億円）

	平成21年度 第1四半期会計期間末		前年度末比	平成20年度末	
保有契約年換算保険料	17,004	0.3%		16,950	
うち第三分野	3,381	△0.2%		3,388	

○団体年金保険の受託資産残高

（単位：億円）

	平成21年度 第1四半期会計期間末		前年度末比	平成20年度末	
① 明治安田生命	63,897	0.1%		63,806	
一般勘定	59,577	△0.3%		59,777	
特別勘定	4,320	7.2%		4,029	
② MDAMアセットマネジメント	17,863	△0.3%		17,921	
③ 安田投信投資顧問	3,333	3.0%		3,237	
合計（①+②+③）	85,094	0.2%		84,965	

- ◇ 解約・失効率（個人保険・個人年金保険）は1.68%と、個人営業改革によるアフターサービスの充実により、前年同期差で0.02ポイントの改善
- ◇ 総合継続率についても、前年同期差で、13月目は2.4ポイントの改善、25月目も4.1ポイントの改善

○解約・失効の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	平成21年度		平成20年度
	第1四半期累計期間	前年同期比 ^(注)	第1四半期累計期間
解約・失効年換算保険料	227	△2.7%	233
解約・失効率	1.68%	△0.02ポイント	1.69%

- (注) 1. 解約・失効率は、前年同期差です。
2. 解約・失効率の数値は、年換算していません。

○総合継続率の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：%）

	平成21年度		平成20年度
	第1四半期累計期間	前年同期差	第1四半期累計期間
13月目総合継続率	91.1	2.4ポイント	88.7
25月目総合継続率	79.0	4.1ポイント	74.9

- (注) 総合継続率は、契約高ベースにて算出しています。

- ◇ 基礎利益は、銀行窓販の大幅伸展や営業職員制度改革に伴う事業費の増加、および運用環境悪化による利息及び配当金等収入の減少等の影響により、568億円と、前年同期差197億円の減少

○基礎利益

（単位：億円）

	平成21年度		平成20年度
	第1四半期累計期間	前年同期差	第1四半期累計期間
基礎利益	568	△197	765

2. 健全性指標

- ◇ ソルベンシー・マージン比率は、前年度末より105.3ポイント上昇し1,204.0%と、引き続き1,000%を超える水準の支払余力を確保
- ◇ 実質純資産額は、3兆3,899億円、一般勘定資産に対する比率14.3%と健全な経営を維持していくための純資産額を確保
- ◇ 含み損益（一般勘定資産全体）は、1兆5,342億円（前年度末差5,530億円増）と十分な企業体力を堅持

○ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額

（単位：億円、%）

	平成21年度 第1四半期会計期間末		平成20年度末
		前年度末差	
ソルベンシー・マージン比率	1,204.0	105.3ポイント	1,098.7
実質純資産額	33,899	4,863	29,035
一般勘定資産に対する比率	14.3	1.9ポイント	12.4

（注）平成21年度第1四半期会計期間末は、法令等に準じて当社が合理的と判断する方法で算出しています。

○一般勘定資産全体の含み損益

（単位：億円）

	平成21年度 第1四半期会計期間末		平成20年度末
		前年度末差	
一般勘定資産全体の含み損益	15,342	5,530	9,812
うち有価証券（注1、2）	10,799	5,554	5,244
うち土地（注3）	4,524	△25	4,550

（注）1. 時価のある有価証券に加え、時価のない有価証券（外貨建の子会社株式及び関連会社株式等）を為替評価した場合の含み損益相当額を記載しています。

2. 有価証券には、CD（譲渡性預金）等、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めています。

3. 平成11年度末（明治生命）および平成12年度末（安田生命）に実施した土地の再評価による「再評価差額」を含めています。また、借地権を含めています。

○時価のある有価証券の含み損益（一般勘定）

（単位：億円）

	平成21年度 第1四半期会計期間末		平成20年度末
		前年度末差	
時価のある有価証券の含み損益（注）	10,959	5,558	5,400
うち公社債	2,585	23	2,562
うち株式	8,577	5,127	3,450
うち外国証券	△228	370	△598

（注）本表には、CD（譲渡性預金）等、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めています。

○国内株式含み損益ゼロ水準

	平成21年度 第1四半期会計期間末	平成20年度末
	仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動するとした場合	
TOPIX ベース	640円 ¹ 外程度	640円 ¹ 外程度
日経平均株価ベース	6,800円程度	6,600円程度
株価指数と当社ポートフォリオの過去の連動性を用いて算出した場合		
TOPIX ベース	620円 ¹ 外程度	620円 ¹ 外程度
日経平均株価ベース	6,600円程度	6,400円程度

以上